



2011. May
第 6 号

日本演出者協会 協会誌「ディー」

題字 千田是也

新劇の代表的演出家・千田是也氏の文字をロゴデザインに使用。

(資料提供／早稲田大学坪内博士記念演劇博物館)

号外

『復興! 東日本大震災 2011.3.11』
別冊発行

特集『NHK劇場中継の復活を!』

Contents ■■

- | | |
|------------------------------|------------------------|
| ■号外『復興! 東日本大震災 2011.3.11』……2 | ■追悼 戌井市郎先生……14 |
| ■ホームページ映像対談 西川信廣 × 和田喜夫……2 | ■部会だより……15 |
| ■若手演出家コンクール……3 | ■日本演出者協会 事業担当……15 |
| ■特集『NHK劇場中継の復活を!』……6 | ■各地域活動通信……16 |
| ■演出家養成セミナー2011……8 | ■理事会報告……17 ■新入会員紹介……18 |
| ■若手演出家コンクール(前年度)最優秀者公演……10 | ■退会者・訃報……19 |
| ■国際演劇交流セミナー2011……11 | ■データで見る地震対応……20 |
| ■日本の近代戯曲研修セミナー2011……14 | ■編集後記……20 |

日本演出者協会誌「D」(ディー) 第6号 定価＝無料 2011年5月1日発行 平成20年11月創刊(毎年2回発行)

【発行人】和田喜夫(理事長) 【編集人】篠崎光正(広報部長) 【編集委員】篠本賢一・三谷麻里子・小川功治朗・大杉良・今井夢視・秋葉舞滝子・緑川憲仁

【発行所】日本演出者協会 東京都新宿区西新宿6丁目12番30号芸能花伝舎3F(〒160-0023) 電話 03-5909-3074 【編集・制作】日本演出者協会広報部協会誌「D」編集委員会

【題字】千田是也「Marionetto」より 【印刷所】有限会社一光堂印刷 【表紙デザイン】前嶋のの 【本文デザイン】奥秋 圭

復興！ 東日本大震災 2011.3.11

謹んで地震災害のお見舞いを申し上げます。
このたびの大規模地震により被災された皆様に、
心よりお見舞い申し上げます。
一日も早い復興と、皆様のご健康を
心よりお祈り申し上げます。

2011年3月11日に発生した東日本大震災は、国内観測史上最大のマグニチュード9.0を記録しました。津波と火災では多くの被災者が出ており、12日の福島原発爆発などの発生で避難指示も発令されました。

I 緊急レポート

「いま、なにができるか。」

「いま、わたしがおもうこと。」

日本演出者協会理事会では、復興支援のために、あらゆる可能性を追求します。演劇にできること、演出家にできること、それらを模索し行動へ結び付けていくため会員のみなさんから、それぞれの思いを集める事にしました。発行ぎりぎりまで少しでも多くの思いを集めるため、まとめて号外とすることにしました。会員有志の投稿集です。

II NEW ホームページ映像対談 Vol. 1 「震災と演劇」

<http://jda.jp>

対談 日本演出者協会 和田喜夫 × 日本劇団協議会 西川信廣

日本演出者協会ホームページは、リアルタイム広報として常に新しい情報を発信する第一弾として、日々流動的に事態が変化する被災地の支援について話します。(http://jda.jp 日本演出者協会 HP へお出で下さい)

若手演出家コンクール2010

2011年3月2日（水）～6日（日）下北沢「劇」小劇場にて、若手演出家コンクール最優秀賞を決する審査上演が行われた。第1次審査応募96名、第2次審査15名を経て、優秀賞に選ばれたのは4名。最終日の公開審査会にて、金哲義が最優秀賞に決定。全作品を観劇した観客の投票数で決まる観客賞も金哲義が受賞した。

最優秀賞 観客賞ダブル受賞

（最終審査の全4作品を観劇した観客の投票により決定）

最優秀賞 金哲義（劇団MAY）

作品名『晴天長短―セイテンチャンドン―』（作＝金哲義）

応募動機——知り合いの演出家に「若手演出家コンクールに応募してみないか」と。僕はもう年も年だし若手ではないと答えたんですが、「気持ちの面で若手ならしい」ということで。演出家コンクールがどういうものがよくわからないままギリギリで応募して、ですから選考を通ったときも驚いたし、優秀賞をとったことにも驚きました。

作品について——今回の作品は、最終選考に向けての新作ではないんですね。去年の十一月に優秀賞をいただいた作品をそのまま持ってきたんですけれども、持ってくるときに、大分いろいろと悩みました。優勝だけを狙うために作品を選ぶというようなことは考えから切り離しまして、二十年前の大阪の朝鮮学校の運動会を舞台にしているんですけれども、今とは様子が違って、まだ朝鮮学校が元気だった頃の、それでも減っていつていることは感じていた時代だった。お客さんとにかく突き刺さるものはないのか、を優先しないと、東京にせっかく遠いところから来るのに、切り込まないといけないと思って。コンクールに出品するに当たっては別の候補作もあったんですけど、ここはあえて、同じものを持っていくことで、攻撃をしないと。

今後の展望——チェジュ島へいけなかったときに、劇団員がみんな行ってくれて、チェジュ島で僕の作演の作品をやってくれた。これをきっかけに韓国との交流が盛んになってきている。今はいけないけれども、いける場所で戦いたいという思いがあり、韓国との交流をますます深

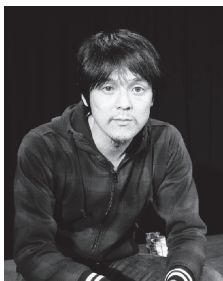
めていきたい。

演出者協会に望むこと——日韓演劇フェスティバル大阪が開かれるけれども、大阪には東京ほど強い韓国人のコミュニティが無い。やはり在日の人の力を借りた方がいいと思う。

広報に力を入れて、せっかくやっている企画やイベントを一般にどんどん広めて欲しい。

今、日本の文化が危うい。国が日本の文化育成にお金を出さない、まったく力も貸さない。次代を担う人たちが、そういうことをしかなないと諦めている現状を打破してほしい。若い人のために上の人が道を切り開いていってくれたらと思う。

金哲義



1971年大阪生まれ。1993年「劇団メイ」結成。2002年「May」と改め、ライブ他、演劇以外の活動も行う。結成以来殆どの作品を作演。近年は己のルーツを全面に打ち出し好評を得る。「Alice賞2007/2009年」受賞。



優勝インタビュー

今のお気持ちを教えてください——今のお気持ちを教えてください。仲間とお客さんに支えられて取れた賞。お客さんも含めた仲間、皆でとった賞だと思っています。

優勝作品について——この作品は在日に対するエールもあるけれども、在日に限らずマイノリティ全体に対してのエール。人は皆、どこかにマイノリティの面を持って生きているもの。でも、マイノリティだってちゃんと世界を歩いていることを伝えなかった。そして次の世代へバトンを渡して行きたい。新しい時代を模索している作品です。

最後に一言——文化というものが本当に確かな力を持っていると言ったことをもっとよく信じて欲しい。そして、破壊して欲しい。文化の本質は破壊です。ぬるま湯にならないように、戦って欲しいですね。

コンクール概要

第一次審査

96名の応募者に対し、ビデオ・書類審査を実施。

第二次審査（2010年9月10日～12月10日）

第一次審査で選出された15名の演出家による上記期間に行われる公演（または公演に準ずる形での通し稽古）を、審査員2名以上が観劇し、審査。

最終審査（2011年3月2日～3月6日）

最終選出された4名が優秀賞受賞。下北沢「劇」小劇場にて一般公開で競演。1時間の作品を、2時間の仕込み・1時間のバラシ作業で上演。最終審査と公開審査が行われた。

【最優秀賞】賞金50万。さらに日本演出者協会協力の記念公演を実施。

優秀賞 鹿目由紀 (劇団あおきりみかん)

作品名「現在、進行形」(作||鹿目由紀)

演劇、演出を始めたいきっかけ——中学生の時、高校の先輩の舞台からバラが飛んできて、自分の手にスポッとハマったのがきっかけで、高校の演劇部に入り役者を経験し、大学生の時に喜劇が好きで、劇団を立ち上げた時に戯曲をかいて面白くなったが、演出は好きではなかったです。

応募動機——前回参加時も勉強になったし面白かったけど、自分たちの良い所を発揮しきれなかったので、最優秀賞を取れなかったリベンジというより、自分たちの持ち味を出し切りたいと思いました。

今回の作品について、心がけたこと——コンクールのために何か、ではなく、最近気になっている、心の中をどう具現化するか、対人関係の距離をどうやって表すと面白いかが恰好つげずにやりたかったです。自分にとって新鮮じゃないとやれないので、どんなに忙しくても新作で挑戦しようと思いました。

手応えは——稽古時間ぎりぎりでしたが、ちゃんとやってきたことが乗れば面白いと思いました。

今後の展望——これで終わってもいいと思えることができたらいなと思います。そんな日は絶対来ないとわかっていて、その矛盾の中でやっています。全国を回りたいし、やったことない地でやりたい思いもある。やりたいことはいっぱいあります。

協会に望むこと——東海地区の人数をもっと増やしたいです。

他者との交流について——他の人と関わることで、自分たちを知ることができているので、ありがたいです。

他の作品について——劇団の芝居でも他の芝居でも、自分の相模が取ればいいなあと思っています。



鹿目由紀——劇団あおきりみかん主宰。劇団の全ての作・演出を手がける。2009年、若手演出家コンクール2009優秀賞を受賞。2010年、第16回日本劇作家協会新人戯曲賞最優秀賞を受賞。「中学生日記」等のテレビドラマ、ラジオドラマの脚本、他劇団の作・演出を手掛けるなど、幅広く活動。

優秀賞 錫村聡 (手作り工房錫村)

作品名「水商売」(作||錫村聡)

演劇、演出を始めたいきっかけ——唐さんですね。大学時にちょっとだけ参加した唐ゼミで面白かったのと、強い肉体というより弱い肉体、演劇経験のない人たちが作る作劇のないものが好きで自分で創りたくなりました。

演劇サークルに入ったのは、今回のメンバーでもある当時から仲間が、とてもチャミングだったこともありです。

今回の作品について、心がけたこと——相手役にだけ向かっている言葉が好きで、お客さんを無視しているようでありながらその世界に巻き込まれ、半端にお客さんに向かう系統の某劇場が大嫌い、そうなることだけは避けたと思います。好きなメンバーとだけやりたかったので、5人芝居を2人芝居に書き換えました。自分の書く言葉を自分で演じたときに、お客さんにどういう反応を受けるか興味もありました。ただ、作劇的になつてしま

うので、自分の出演は好きではありません。

今後の展望——特にどこでやりたいとか動員を増やしたいとかの野望、野心はなく、そこでやっているだけで誰もが入りたくなるようなものすごい熱を出せるようになりたい。そういう体になりたいし、そういう体の仲間とやりたい。今回いっぱいメンバーがいなくなったので、メンバーを探したい。中途半端な素人ではなく、腹の座った素人、プロの精神をもったアマチュア

がみつかるまでは、一旦、今やっている洗剤の実演販売に専念し、それを突き詰めたいです。

協会に望むこと——1時間仕込みはドキドキするから、仕込みにもっと時間をさける長いスパンのコンクールをやっていたきたい。そしてできれば

何でもありのタイニエアリスにして欲しい。



錫村聡——1983年生まれ。生まれてすぐアメリカのフィラデルフィアに移り、幼少年期をそこで過ごす。横浜国立大学で演劇と出会い、2006年「手作り工房錫村」を立ち上げ、最強の素人芝居を創りつづけている。

優秀賞 平塚直隆 (劇団オイスターズ)

作品名「続・トラックメロウ」(作||平塚直隆)

演劇を始めたいきっかけ——今まで戯曲賞とかではいろいろノミネートしていたいてんですけど、実際に舞台成果を見てもらって評価されることがあまりなくて、そういう機会があればと思って応募しました。

作品について——正直、コンクールだからということはありません、一時間という制約があったので、一時間ならこれかなという。自分たちが面白いと思う作品をとにかく見てもらおうと。もともと二十分くらいの作品を延ばしたものです。

今後の展望——東京にはこれからできたら年に一回は来たいと思っていて、これがいよいよきっかけになれば。今回初めて東京でやれることになったので、ありがたいです。まずは名古屋にこんな劇団がいるということを知ってもらいたい。けど、あまり先のことを考えていない劇団なので、特に目標とか面白く思っていただけばいいです、僕も満足できる作品が出来ればいいと思います。でも未だに満足できる作品ができないので、僕個人としては満足できる事がこの先あるのならそれまでずっとやっていければいいなと思います。創作の事を考えるとやっぱり劇団があつてよかったです。個人的にはこれから映画も撮ってみたいです。

脚本も書きたいです。創作の幅を広げていきたいです。

演出者協会に望むこと——劇作家協会東海支部には毎年、「劇王」という企画があります。来年にはそれを全国各地でやって、天下統一戦みたいな企画にしたいと考えてます。今回、名古屋から僕と鹿目が残っているのも「劇王」のおかげかなとも思う。いろんな人の作品を肌で感じる事によって作家が変わったように、演出家にも

そういう機会があればと思います。



平塚直隆——オイスターズ所属。昭和48年名古屋生まれ、在住。2009年仙台劇のまち戯曲賞大賞、2010年日本劇作家協会新人戯曲賞最優秀賞を受賞。外部演出、脚本提供も多数。

若手演出家コンクール 公開審査

審査員は瓜生正美・柄本明・岡田潔・鐘下辰男・木村繁・小林七緒・西沢栄治・深津篤史・松本祐子・村井健・流山児祥。11名が2票ずつの投票権を持つ。

講評 (全審査員の発言より抜粋)

◇鹿目由紀 (劇団あおきりみかん)

小林…分裂した人たちがずっと同じ圧でぶつかり合っているの、転がらず停滞している印象。演出家が役者として中に入っているの、圧力に飲み込まれてパランスの取り方が雑になるのでは。演出家の作業がみえなかった。

木村…鹿目演出のキードである道具立てに期待して観た。道具は喫茶店らしき空間のテーブルと飲みかけの器、男性の中にある女性性、女性の中にある男の部分を感じられて興味深く見た。セットは無いが、却って演出家の持っている複眼力を感じた。

瓜生…面白く観た。同じようなスタイルの芝居を創っているようだが、その中で、強いメッセージを込められることを望みたい。内容が形式を生むのが本来のあり方だと思っから。

流山児…分裂した人物達がもっと、入り乱れたら面白かった。他のチームにも言える事だが、本来演劇は役者・作家・演出家は「批評的関係でなければならぬ」。今までの方法でないやり方を演出家も俳優達も「集団」で探して欲しい。

鐘下…分裂を扱っているが分裂していない。手取り早いところでスタイル化されているのでは。

松本…演出家コンクールは台本を一つに

決め純粹に演出を競った方がいいのでは。今回の優秀賞の方は皆、台本も書いているので、演出のみを切り離せない。全員に言える事だが、最初のアイデアから、ストーリー上のねじれやゆがみや広がりが無い。発想のみに満足せず、観る者を裏切っていくような世界を創つて欲しい。

西沢…オープニングとラストで何も変わらない。それが狙いならいいが。鹿目台本ならもっと面白くもあると思う。

◇金哲義 (劇団MAN)

柄本…いい意味で真面目。俳優はなぜ無理をするのか。与える側と与えられる側になつてしまふ。予定調和を壊して欲しいがそういう工夫が無い。好印象の作品ではある。

西沢…展開していかないのがもったいない。この空間や時間を操るのが演出。時空の伸び縮みの扱いがうまくない。

松本…在日の問題を語っていく手つきに疑問が残る。団結が強く、おせっかいな愛すべき家族の姿が笑いを求めて描かれているが、その中で語られる在日の「生きたくさ」を金さんには、もっと真正面から語って欲しいと思う。

深津…面白かったし、いい人なんだろうと思った。作品のダイナミズムというところで考えると、盛り上げもしんみりもステレオタイプで、しんどい。

流山児…心が洗われた舞台だった。上手い下手じゃない。全力で生きたいニンゲンを描いている。思い切つてマダンノリのスタイルでやればよかった。劇場版にする必要は無い。俳優さんが皆、「在日」では無いのに、「在日」のドラマをリアルに演じている。東京演劇に無い「志の高さ」がある。

瓜生…面白く観た。異国で暮らす在日が故の大家族の絆の強さに感銘を受けた。役者にも好感を持った。日本人の在日朝鮮人の抱える問題をよく理解して表現しようと努力しているから。

木村…金氏の一次予選作品の三時間DVDを見たが、空間処理などの演出能力には非凡なものを感じた。今回は短編のため一次予選と別の手法で見せるのかと思ったが、それを切り取ったようなものだった。金氏の言うマダン劇の伝統的な様式をもっと取り入れてよかったのでは。

小林…とても面白く観た。やりたいことが一番はつきりしていた。ただ、最後の最後にマダンノリを聞かせてくれるなら、芝居の中で聞きたかった。

◇錫村聡 (手作り工房錫村)

瓜生…面白く観た。実体験に近いところを芝居にしている、リアリティがあるが、一人芝居の感あり。相手役とのやり取りの中で創って欲しい。

木村…俳優が互いに向き合い対面式で長時間演じ続けるのだが、この二人は客席に正面向きでやってもいいのではないか。なぜならこの作品は相手がいるのになぜか一人語りなのである。人は集団でいても結局一人語りという人間観があるのか

…それなら、それを突き詰めていけばいいのでは。

小林…一番セツトラしいセツトにしていたのに照明が暗くて見えない。なんで？に対するアンサーが無いのはしんどかった。相手の言葉を拒絶する口調、これによつて何を伝えたいのかわからなかった。

岡田…社会派と感じた。明かりがつかないので、なぜあんなに暗いのか。スッキリしない。もう一つ殴られたい。消化不良。西沢…あの明るさは好き。錫村発明だと思ふ。いい意味で気持ち悪い。

松本…切なくなった。人間がいかに自己中心的であるかを抽出した作品。出会いカフェでの会話など、聞いていて嫌な気分になったのは、演出家の成功なのかもしれない。それにしても、舞台のあまりの暗さには生理的に疲れた。

流山児…最後にゼーンぶ「明るく」して見せればよかった。演出家が役者をやっているから「やりたいこと」が透けて見えてしまふ。確信犯的にやるなら、もっと「演出的仕掛け」が欲しい。東京で「劇団」をきちんと作って欲しい演出家。

◇平塚直隆 (劇団オイスターズ)

流山児…いろんな意味で面白く観れた。最後の意味を考えたり、見ながら俺だったらどんな風に演出するだろうと考えた作品。鹿目さんとは違った意味で完成された演出家。が、もっと変化する。名古屋はイイ劇団とイイ演劇人を次々輩出してるな。

松本…兄と妹のどちらが病んでいるのかとか、そついったことの説

明やオチがない不条理劇風の作品なので、結果、何を見る側に伝えたいのかがわかりにくい作品だなと思った。役者さんがそれぞれ魅力的ではあったのだが、作品の持つ原動力が感じられなかった。

西沢…見易さは一番。素舞台なのがいい。妹が客に語りかけてくるが、妹の距離がわからない。その意味によつてはもっと変わってくる。

小林…すごく好き。詰めすぎない。ゆるいくだらなことを、一応考えて制御してやっている。もっといけそうなのに、というのが残念。役者がとても素敵に見える時間があるのが好き。

木村…平塚氏は短編戯曲が実に上手い。つくづく長編を書くべきじゃないと思つた。今回の一時間がギリギリいい感じに戯曲・演出ともに収まっている。

村井…構造に問題。誰の幻想か、主語をきちんと押さえて書かれていない。もう一歩先のところへ行くには構造をもう少し掘んでいくこと。実は生活は切実なのに、感情しかみえない。

瓜生…構造は面白いが、主人公三人の関係がもっと鮮明にならないと。せつかくの面白い空間が伝わらない。

第一次投票	鹿目	金	鈴村	平塚
瓜生正美		○	○	
柄本明		○	○	
岡田潔		○		○
鐘下辰男			○	○
木村繁	○			○
小林七緒		○		○
西沢栄治			○	○
深津篤史		○		○
松本祐子		○	○	
村井健	○	○		
流山児祥		○		○

上位二名による決選投票では、6対5という僅差を制し、金哲義が最優秀賞に決定した。4作全てを観劇した観客からの投票による観客賞も、金哲義が受賞した。

現代演劇のNHK舞台中継がこの4月から1本も放送されていませんが、日本全国から「芝居が観たい!」という悲痛な叫び声が聞かれます。これまで、「芸術劇場」「ミッドナイトステージ館」という番組で、現代劇の舞台中継が放送されていましたが、この4月から現代劇の舞台中継の予定もまったくありません。番組廃止理由はさまざま巷で囁かれています。いまだ真相はわかっていません。そこで、日本演出者協会広報委員会ではこの問題を取り上げ、全国津々浦々に文化を届ける役目を持つNHKにぜひとも再考してもらい、舞台中継番組の復活の実現に向け訴えて行きます。

事実経過

日本演出者協会では、NHKの舞台中継が現代演劇については終了という報道を受けて、現代演劇関係6団体(社団法人日本劇団協議会、日本演出者協会、一般社団法人日本劇作家協会、日本新劇製作者協会、社団法人日本児童演劇協会、日本児童・青少年演劇劇団協同組合)の連名で社団法人日本劇団協議会にとりまとめた。だいてNHKへ公開質問状を提出いたしました。

公開質問状(平成23年3月22日)

2月に行われたNHKの定例記者会見において、4月以降の番組編成について触れる中で、『芸術劇場』(教育、金曜午後11時)と『ミッドナイトステージ館』(BS2、金曜深夜0時45分)の両番組が終了するとの説明がありました。2月15日付のサンケイ新聞にも番組終了を伝える記事が掲載されています。

このことを受けて、私たちが今後の現代演劇の放送についてNHKに問い合わせたところ、「現代演劇の放送に関しては、(4月以降の)番組表を見てくださいとしか言いようがない」という回答をいただきました。

現代演劇の舞台中継が観られる番組は、NHKでは『芸術劇場』と『ミッドナイトステージ館』しかなく、この両番組の終了は現代演劇の普及に大きくブレーキをかける恐れがあります。中でも現代演劇を観る機会の少ない地方在住の方にとっては、録画中継とはいえ現代演劇を観る唯一の機会を失ってしまうことにもなります。

こうしたことを踏まえ、以下の3項目について質問を致します。

1) NHK教育の『芸術劇場』とBS2の『ミッドナイトステージ館』、この両番組終了によって、NHKでは現代演劇の地上波による放送もBSによる放送もなくなることになりますが、それはどのような考えに基づいて決定されたのでしょうか。その理由をお聞かせください。

2) 定例会見では「演劇番組をなくすつもりはない」という前置きがあった上で、邦楽関係はNHK教育の新番組『にっぽんの芸能』に残し、オペラはBSプレミアム『プレミアムシアター』で放送するとの説明がありました。では「現代演劇」は4月以降、どの番組で放送されるのでしょうか。もし、放送予定がないのならば、それはどうしてでしょうか。その理由をお聞かせください。

3) 我が国では現代演劇の上演は、東京をはじめとする大都市に集中しているのが現状です。地方での演劇上演と比較すると、その数・質・多彩さ、どれを取っても雲泥の差があります。NHKの『芸術劇場』および『ミッドナイトステージ館』はこの地域間格差を緩和する大きな役割をも担っていたと私たちは認識していますが、この地域間格差についてNHKではどのようにお考えでしょうか。

以上

特集 NHK舞台中継の復活を!



これに対し、NHKより左の回答が届きました。

1) 回答

平成23年4月からNHKの衛星放送を3チャンネルからハイビジョン2チャンネルに再編するのを機に、地上波の総合テレビ、教育テレビとあわせたNHKのテレビ4チャンネル間の番組の再配置など、大幅な番組改編を行います。そうしたなかで、教育テレビの「芸術劇場」とBS2「ミッドナイトステージ館」という番組名はなくなりますが、演劇番組を放送しないわけではありません。

2) 回答

上記の考え方のもと、劇場公演のうち、歌舞伎・能・狂言など古典番組については教育テレビを中心に、クラシック音楽や内外の注目度の高い演劇等については「本物志向の教養・娯楽チャンネル」と位置付けたBSプレミアムを中心に、特集番組などで放送していく予定です。

3) 回答

全国にあまねく放送を届け、文化の向上に寄与することは、NHKが果たすべき重要な役割のひとつであると考えています。その意味でも、注目度の高い演劇は随時放送でご紹介し、全国の視聴者の方々にお楽しみいただけるよう努めます。

平成23年3月30日

NHK制作局第2制作センター

音楽・伝統芸能番組部

部長 市川克美

舞台中継復活へ向けて

NHKの回答は、今後も演劇の舞台中継を放送することですが、そのこととは裏腹に、この4月の春の番組表からは、その類の番組はいつありません。(注…大地震のため3月11日放送予定だった劇場中継は中止され放送未定となりましたが、4月30日に放送予定となりました。この3月分延期番組のみで4月番組には1本もありません)今の予定では、5月末までに「シアター」という枠で放映されるのは、クラシック音楽、舞踊、オペラで現代演劇はありません。さらに回答の中に「現代演劇」という文言はいついさもなく、「古典番組」とか、「注目度の高い演劇」という表現にかわっています。NHKはいつたい現代演劇をどのように扱うのでしょうか。NHKは演劇をどのような根拠のもとに、どう分類しているのかも明確ではありません。しかし、これまで地方において、演劇の舞台映像鑑賞の楽しみをサービスしてきたNHKが、地方の視聴者を捨ててまで、大事にしようとしているものはなんなのか。映画作品ならいくらかありますが、舞台中継としての記録映像は芸術界の貴重な財産です。公共の立場にあるNHKが勝手に処分できるものではなく、NHKにはそれを保管し管理提供する義務があるでしょう。演劇の舞台中継映像を記録映像として活用しているさまざまな分野の研究者や実演家、芸術家、

さらにはそれを取りまく多くの愛好者の、アーカイブとしての利用機会を捨ててまで、NHKが大事にしようとしているものはなんなのか。今回の回答にはこれまでの映像財産の活用などに関しても何もふれてはいません。この番組改編は放送だけの問題にとどまることではないのです。

一方、チャンネルの数が減る事になり、NHKが大きな目玉事業としているのが、新たな性格付けがなされたBSプレミアム。プレミアムがついた説明として「本物志向の教養・娯楽」チャンネルをうたい、「紀行」「自然」「美術」「歴史」「宇宙」「音楽」「シアター」という七つの分野の番組を重点的に放送。40、50代を主なターゲットにするという、ピートたけしが新しいアートの楽しみ方を提案する「たけしアート☆ビート」など34の新番組が始まるとのこと。しかし、このBSプレミアムを中心に舞台中継を放送していくという説明でしたが、聞くところによるとこの枠では国内の現代演劇は取り扱わず、海外からの舞台を中心に話題作を放送するらしい。もちろん、この事はNHKの回答には書かれてありませんが、どうやら消息筋からもれてくる情報は真実味を帯びています。

演劇大学 in 旭川

(報告) 森ただひろ / 劇団「BREATH」代表

2010年〇月〇日〜〇月〇日
〇〇〇ホール
講師・パネリスト
担当 〇〇〇

今回の演劇大学は豆蔻居(地元旭川の高校生や大学生・社会人と演劇を通して、ひとつの作品を作っていく)をメインにして、戯曲講座(奥山氏)、演出講座(宮田氏)、市民公開講座(青井氏)、シンポジウムを講師陣に森、永井氏、和田理事長、宇梶氏(俳優)、羊屋氏を加え行いました。

「地域が抱える舞台芸術の諸問題」をフリーに對話し、その新鮮な会話から新たな答えを見出し、その中に旭川大学が掲げる地域貢献に重点を置いた構想も取り入れたシンポジウムを行いました。

現在、旭川は劇団の数が激減し、悲しい限り。なんとか劇団を増やし、舞台芸術の活性化を図りたい。そのためには舞台空間を沢山創り、役者が集まれるコミュニティゾーンが欲しいところ!とポジティブな意見が沢山生まれ、また自然や文化を始め、さまざまな角度で地域の特色を知り、それを十分理解し、そのなかで自分が出来ることが演劇という空間でメッセージしに行くことが大切と言う意見も出ました。

今回の演劇大学は日本で初めての試み。旭川大学と協働で行いました。何故なら私は山内学長のこの言葉に共感したからです。

「答えのない問いに対して『考える』勉強が

求められるのが大学」という言葉があります。演劇も同じで、学ぶ力となる「想像力」が役者のスキルを向上させます。そして学生や役者が一つのテーマ(演目)について交歓(コミュニケーション)し合うことでその機能が高まっていきます。「想像力」から「創造力」へ!描いていくからです。後、今回の演劇大学では旭川に根強いアイヌ文化を取り入れた何らかの制作を打ちたい! と思っています。

演出家養成セミナー2010 報告

演劇大学 in 横浜

(報告) 大西一郎

2011年1月15日〜23日
相鉄本多劇場 横浜ベイサイドスタジオ
講師 〇〇〇
担当 大西一郎
制作 〇〇〇

首都圏唯一の開催地横浜で約2年ぶりに演劇大学が、2011年1月15日(土)〜23日(日)に亘って開催された。今回も横浜S.A.C(舞台芸術活動活性化実行委員会)との共催事業であり、今年度は横浜 相鉄本多劇場と近隣の横浜ベイサイドスタジオとの2会場で行なわれた。講師には、阿竹花子(ダンサー・振付家)、木村健三(マシユマロ・ウェーブ)、椎名泉水(studio sat)、寺十吾(tsumazuki no shi)、鈴木史朗(A.C.O.A)、森下雄貴(年年有魚)、智春(チキキ*パークウ)、矢野靖人(seh)らによりワークショップが行なわれ、最終日には相鉄本多劇場25周年をテーマに、「民間劇場、疾風怒濤の25年史」というシンポジウムが行なわれ、相鉄本多劇場の歩みはもちろん、民間劇場と公共劇場のあり方と未来、そして劇場法に至るまで話は多岐に及んだ。出



演者は麻生0児(劇団studio sat主宰)、大西一郎(日本演出者協会理事、ネオゼネリター!プロジェクト主宰、横浜演劇計画代表、嶋恵子(相鉄本多劇場 主任)、本多慎一郎(劇小劇場・楽園主任)、横田和弘(神奈川県演劇連盟理事長、劇団河童座主宰)、流山児祥(日本演出者協会 副理事長、流山児★事務所主宰)、和田喜夫(日本演出者協会 理事長、楽天団主宰)終了後には、懇親会も開催され、熱い議論や話し声が続いた。

演劇大学in愛知

韓国の現代戯曲を演出する
(報告) 齋藤敏明

昨年度に引き続き、「演劇大学in愛知」が財団法人愛知県文化振興事業団との共催により開催されました。「韓国の現代戯曲を演出する」をテーマに、韓国の演出家を招いてのドラマリーディング実践講座と韓国の現代戯曲をテキストとした名古屋の若手劇団によるライブシアター、韓国の伝統芸能の公演、演出家・俳優養成セミナーなど、多岐にわたって展開しました。

まず1日目は、特別企画として「韓国の伝統芸能と舞踊」と題し、名古屋の「ノリパン」というグループによる打楽と伝統舞踊、洪明花さんによる韓国舞踊の上演と、韓国伝統芸能と現代演劇の現状などについて語り合うアフタートークを実施しました。

2日目は、栗山氏を招いての演出家・俳優養成セミナー「栗山氏に、聞いて、聞いて、聞きまくれ!」を開催、高校の演劇部員や若い演劇人、一般の方々と幅広い受講がありました。会期を通してドラマリーディング実践講座と若手演劇ライブシアターとが行われました。韓国の現代演劇シーンで活躍する演出家・権皓成(クォン・ホソン)氏を招き、彼の演出のもと、韓国で様々な賞を受賞した人気作品『オアシス クリーニング舎襲撃事件』(キム・ジョンスク作)をテキストに、演出、俳優養成講座を行いました。

2011年2月11日(金)・祝(13日)(日)

愛知県芸術劇場小ホール

愛知県芸術劇場中ホール・サウス

講師 権皓成、小熊テジ、中屋敷法仁、栗山氏也

パネラー 瓜生正美、和田喜夫、菊本健郎

担当 神谷尚吾、洪明花、唐目由紀、ユン・ジョンファン

木村繁(実行委員長)、神谷尚吾(事務局長)

齋藤敏明、ほりみか(広報)、岡本伸子、宮谷達也

金子康雄(はせひろいち、佐久間広一郎、磯崎友子(制作)

共催 財団法人愛知県文化振興事業団

当初はリーディングということだったのが、演出家と参加者の熱意により、ほとんどテキスト無しでの作品上演となりました。

また、若手演劇ライブシアターとして、劇団オートバイ(代表・演出・麻原奈未)による『ちゃんぽん』(ユン・ジョンファン作)(中屋敷氏指導)と劇団スクイーズ(代表・演出・関戸哲也)による『人類最初のキス』(コ・ヨノク作)(小熊氏指導)の創作と上演を行いました。どちらも独自の演出による意欲ある作品に仕上がりました。最終日に3作品の発表会と、講師、演出家パネラー、出演者らによる大激論会(公開講評会)を行いました。(敬称略)



演出家養成セミナー2010 報告

演劇大学in高知

プロから直接学ぶ「演劇の神髄」
(報告) 吉本智賀子/演劇大学高知実行委員会代表

東京など一部の都市でしか受ける事が出来ない高嶺の花だった、理論と実践をともしなう著名な演出家の方々のワークショップをこの高知で受けることができるなんて、夢のような「怒濤の3日間」でした。開催が決まったときは、不安ながらも嬉しさでいっぱいでした。

募集の反響も大きく81人から申し込みがあり、県内はもとより、兵庫県や高松市などからも参加がありました。また年齢も中学生から75歳まで幅広く、特に中高年の女性の参加が多く見受けられました。

実技を中心に演出の技術や役者としての考え方などを実践的に伝授してもらった7つの有料講座と8つの無料講座を行いました。高知では初めての開催であり実行委員やスタッフも手探りで何とか乗り切ったというのが実情です。反省するところは多々あるものの、しかし、終わってみれば誰もがやって良かったという満足感にあふれていました。目的をはっきりと見定められた確かなことばでプロから直接指導を受けられたことは、役者や演出を志す身には何物にも代え難い新鮮な体験でした。参加者も芝居の経験者ばかりではなく、朗読関係の方、身近に演劇を体験してみたいという若い人や、演劇で何か新しいことができないかと考えるシニアの方など、

2011年2月18日(金)・20日(日)
高知市文化プラザ大ホール・公民館
講師 篠崎光正、ふじたあさや、流山昇祥、大杉良
担当 高部幸男、大和滋(芸団協)
演劇大学高知実行委員会
制作 演劇大学高知実行委員会
(財) 高知市文化振興事業団

様々な方が参加していました。それは新しい発見に満ちた刺激的な体験であり、高知の演劇界にとっても大きな一歩となったものと思われます。また今回の大会を実行委員会組織で運営できたことは、地方で演劇に携わる者同士がお互いの劇団や組織の枠を越えて集い、交流したことに意義があり、次のステップに繋がる大変良い機会となりました。この貴重な経験を一過性のものに終わらせるのではなく継続して、演劇の持つ力をさらに社会に還元できるような仕組み作りを考えていきたいと思います。

講師の皆様、本当にありがとうございました。



演劇大学inはつかい

2010年7月16日～7月19日

会場：大ホール リハーサル室

講師：ハネリスト 村井健、高瀬久男、鴻上尚史、

岡田利規、和田喜実、流山児祥、小林七緒

担当：鈴木美恵子

(報告) 鈴木美恵子

◇親子で演劇と遊ぼう！

日時：9日(土) 1000～1200

対象：小学生とその保護者

定員：5組

場所：リハーサル室

5組の親子が集まってくれました。お手伝いのおとも4人参加してくれました。

まずは、みんなで工作！段ボールをつかって、キャピラをつくりました。親子ではいれるくらい大きな段ボールのワッパです。はじめて出会うみんなで工作をして、それをつかって競争をしました。演劇教室なのに、なぜか工作をさせられて、みんなの間に仲良くなりました。

それから、準備体操に軽いヨガをやって、名前をおぼえあておにぎり。小さな空間をおとも必死に走り回る。それから、彫刻レッスンや目隠し身体ざわりゲームを通して、身体を意識。みんな初めての体験にじぎまじしながら、おそろいでも、わくわくしながら参加してくれました。とくに、大人が興奮している様子がおもしろかった。

メインは目隠しをして歩くレッスン。視覚を遮断すると、ほかの感覚が鋭敏になって普段とは違う体験ができる。また、さまざまな感情が勝手にわきあがってくる。親子でペアになって、部屋をぐるぐる歩き回る。そのあと、廊下をあるいて外へ。それでは全力疾走してくだ

さい」との声に、みなさんワウっとなりました。少し走るひと、動けない人、歩く人。それから、目隠しを取ると、「ああ、やっぱり外だ」「わかった」などなど。

「エンゲキって大声出して、演劇するんじゃないかと思ってました」の声。
暖かい広場で、親子の演劇体験はとても充実したものにりました。

◇演劇と遊ぼう！小学生編

日時：20日(日) 1000～1200

対象：小学生

定員：20名

場所：大ホールステージ

10人の子どもたちが集まってくれました。昨日きてくれた子が半分。幼児・小学五年生まで。さまざまな年齢の男女だったから、どうしようかと思いつながら昨日つくったキャピラで遊ぶ。いつのまにか、みんな仲良くなって、こどものやわらかさを感じる。大きい子が小さい子をリードしてくれて助かる。ヨガをやって身体をのびして、またまた名前おにぎり。これはどこでも、盛り上がる。つづいて、だるまさんが転んだをやる。みんなが知ってる、なんの変哲もないもの。これが、大盛り上がり。大興奮。このままだと演劇教室にならないから、「だるまさんの目」に発展させてみる。転んだところを様々な日常のポーズを言ってみんなストップモーション。これまた大興奮。みんな恥ずかしがるすきもないほど、さまざまなポーズをきめてくれる。「はみがきをする」「はんだをたたく」「おきの

「ろび」が「つづいて」「べんきようする」「だるまさんがサル」などなど、それぞれが違う形になってくれた。ふと、見学する親や劇場関係者が目に入ったので、こ

若手演出家コンクール2009

最優秀賞受賞記念公演報告

御笠ノ忠次



御笠ノ忠次

高校卒業後、劇団「1980」に二年間所属。その後、「スペースノイド」の演出家として本格的な活動を開始。スペースノイド解散後、「案山子堂」を始動。「若手演出家コンクール2001」で優秀賞を受賞。2002年、前年度に続き奨励賞を受賞。「若手演出家コンクール2009」で最優秀賞を受賞。

3月11日は昨年のコンクールの副賞で頂いた公演の二日目でした。
なのでこの原稿、色々書いては消し書いては消しをくり返してみたのですがね。
今は何を書いても違うような、違うはないのだけれど活字にしたところで今の速度と温度に文章が反応仕切れない、そんな感じなんです。ですからまあ、なんと言いますか、僕は持ち場に帰ります。

そして、息を吸うようにモノを作っていくことと思います。
今まで以上に。



若手演出家コンクール 2009
最優秀賞受賞記念公演
案山子堂 『bond 再』
作・演出 御笠ノ忠次
2011年3月10日(木)～14日(月)
下北沢「劇」小劇場

この公演は「若手演出家コンクール 2009」最優秀賞受賞を記念して、制作費の一部を日本演出家協会が負担して行われたものです。

なお、この度の東日本大震災の影響により11日、12日、14日の公演が中止となりました。

国際演劇交流セミナー2010報告

ベルギー特集

グルボフ、初来日
(報告 佐々木治己)

『ルワンダ94』で世界的に知られるようになったグルボフの初来日。日本での認知度は低いせいかワークショップの参加者は少なく、予定していたビデオワークショップは内容を変更し、グルボフの変遷を辿るワークショップとなった。演出家・ジャック・デルキューヴェリ氏による演劇思想を巡る問い掛けと、映像作家・マリ・フランス・コラルル女史の作品を挿入することで、グルボフの活動だけではなく、演劇が現在置かれ、かつ問われている状況が端的に示された。上映会では『ルワンダ94』のルワンダ公演のドキュメンタリーを上映し、社会問題と対峙する演劇の有り様が示され、グルボフの日本での注目を集める契機になるだろうと思われる。演劇批評家・鴻英良氏の司会によるシンポジウム「演劇と倫理」、東京は福田善之氏、荒井晴彦氏、札幌では青井陽治氏を迎えて開催された。ルワンダで行われた虐殺に取材して制作された『ルワンダ94』は、虐殺の衝撃的な映像と、証言を収録しているが、そこには報道されていない事実、そしてまた今でも解決していない問題が多くある。そのとき、演劇がどのようになされるか、なされたかについて注目が集まると共に、これから演劇が何を行っていくのかということと考えさせられたシンポジウムだった。もちろん、



ん、大きな社会問題を扱ったから良しとするのではなく、大きな社会問題を目にしたとき、そこから目を背けることが出来ない自分の問題としてデルキューヴェリ氏は制作をはじめたことなどを語り、そのことは同時に、他人事のように、距離があることは制作のプロセスとなったことなど参考となることが多く語られた。グルボフの試みには、これから演劇が求められていく姿の一端があるように思われる。また、コラルル女史からは現在のルワンダの状況についても語られ、特に虐殺以後の女性問題などについての報告は深刻なものであった。

2010年9月25日〜10月1日(東京)、10月3日(札幌)
プロトシアター(東京)、芸能化伝舎(東京、コンカリーニョ)(札幌)
講師・パネラー ジャック・デルキューヴェリ(演出家)
マリ・フランス・コラルル(映像作家)
シンポジウム司会 鴻英良
パネラー 福田善之(演出家)、荒井晴彦(映画監督)、青井陽治(演出家)
翻訳 熊木淳
担当 佐々木治己、羊屋白土
参加者 ワークショップ15人(男9人・女6人)(招待見学者含む)、上映会25人、シンポジウム24人、上映会・シンポジウム35人

国際演劇交流セミナー2010 報告

国際演劇交流セミナー2010報告

カナダ特集

国際ペン東京大会共催プログラム
ドラマティック・リーディング「洪水の年」
(報告 家田淳)

2010年9月、国際ペン東京大会の基調講演スピーチカーとして、カナダを代表する作家マーガレット・アトウッド氏が来日。大会の併催プログラムでアトウッド氏の最新作『The Year of the Flood』(「洪水の年」)のドラマティック・リーディング(朗読劇)が日本語上演されることになり、リーディングの制作を日本演出者協会が請け負った。主催は明治学院大学およびカナダ大使館。演出は2006年、国際演劇交流セミナー「カナダ特集」の講師として来日を果たしているアリス・パーマー氏。出演は青井陽治・井上薫(俳優座)、高山佳音里(劇団昴)。翻訳は佐藤アヤ子(明治学院大学教授)。また朗読の間に差し挟まれる伴奏・合唱はカナダから4名のシンガーが来日して参加。アトウッド氏本人もナレーションで出演するという豪華なリーディングである。本番は明治学院大学チャペル(28日)、カナダ大使館オスカ・ピーターソンシアター(29日)の2回。

準備段階ではまずリーディング台本の和訳に目を通してキャスティングを行いつつ、平行して小説の原作を取り寄せて読み込んだ。舞台は近未来の北米。由来不明のウィルスが地球を襲いほとんどの人間は死に絶え、わずかに何人かがシェルターや崩れかけのビルの中に生き残っているという設定。現代社会を皮肉つつ警鐘を鳴らすこの作品の面白さを、大幅にカットしたリーディングでいかに日本の観客に伝えるか? まだ小説が日本語で発売されていないため、リーディング台本だけでは難解な物語の背景をキャストに説明し、さらに翻訳の佐藤先生と相談しながら稽古場で出演者全員、頭を突き合わせて言葉を選んでいくのも大変大きかった。本番の3日前に演出家も来日してディスカッションと通し稽古。

本番は幸いに両日ともほぼ満席で、短い準備期間で役をしっかりと掴んだ俳優3名の熱のこもった演技と生演奏を交えたリーディングは好評だったようである。普段の国際演劇交流セミナーとは違ったスタイルのイベントで手探りの運営だったが、素晴らしい作品と向き合い、新しい人達との出会いに恵まれた幸せな時間だった。



2010年9月28日〜29日
明治学院大学、カナダ大使館
講師 マーガレット・アトウッド(作家)
アリス・パーマー(演出家)
翻訳 家田淳
担当 和田喜夫、家田淳
参加者 200人(明治学院大学)、230人(カナダ大使館)

韓国特集

心理と身体の統合的な演技論——息の演技

(報告) 黒川逸朗

「息の演技」をテーマに、韓国で今最も注目を集めている演出家の一人であるイ・ユンテク氏を向え、ワークショップを東京と大阪で開催した。氏が度々日本に於いても芝居を上演した実績もあり、その評判のせいから、参加者は連日30名を超える盛況振りであった。

おおまかな内容としては、まず独自の呼吸法を使った一時間程度のエクササイズを行い、その後、テキストを使った実践的なパフォーマンスを氏の演技理論に基づき、丁寧に分かり易く進めていった。特にその呼吸法において、身体表現及び感情表現との関連性を深く見出していく

考察には、興味を引かれる要素が数多くあった。

その訓練法の秀逸性は周知の事として、特筆すべきもう一つの点は、ユンテク氏自身が持つ、ある種、類まれなカリスマ性と人間味である。かつて駆け出しであった頃であった我々が芝居を学んだマエストロ的指導者(親分肌的な)というべき姿がそこにあった。成程、日常を離れ集団生活を通じて創作活動を行っている演劇集団コリペの様相の一端が垣間見えた瞬間でもあった。勿論その指導法については、第三者の

2010年9月28日〜10月3日(東京)、10月6日〜10月9日(大阪)

芸能花伝舎(東京)、スタジオ315(大阪)

講師 イ・ユンテク

翻訳 金世一、洪明花

担当 篠本寛、黒川逸朗、堀江ひろゆき、菊川徳之助
参加者 東京27人(男11人・女16人)大阪28人(男8人・女20人)

ていた事は言うまでもない。

ただ惜しむらくは、毎回国際部の会議の席上でも取り上げられる事だが、ワークショップの期間が短く、講師のおおまかな紹介、演技法や演出法のさわり部分で終了してしまうのがあまりにも勿体なく、今後の検討課題として提起していきたい。

今回のワークショップは、全体を通して見て内容的にも動員的にも、大変有意義であったと思う。



国際演劇交流セミナー2010 報告

モルドバ特集

国境を越えて通用する、身体表現とは?

(報告) 小林拓生

「国境を越えて通用する、身体表現とは?」をテーマに、観客との境界線である劇場の四番目の壁をうち破り、俳優の直感や即興力を通して表現することにより、俳優自身も独立した創造主になれる! 最初のミーティングでペトル氏は熱く語った。

身体表現とコミュニケーションを中心に行われるペトルのワークショップは、まず俳優自身の身体を道具として意識するようにと説明し、体を丁寧にパーツごとに動かす、さらに呼吸をコントロールさせることにより参加者をリラクゼーションに導いていく手法は見事である。そして音楽を使い俳優のイメージを膨らませ、ペトルの指示により参加者の身体が、砂の入った布の人形、ゴムの人形、大きく動く皆モンスターのようにと次々に変化していく。「皆で壁を押し空間を拡げよう!」ペトルは魔法使いのように稽古場の空間さえも自在に操る。創造力豊かな身体を得た俳優達は、さらに高度なグループワークへと導かれる。演出家兼俳優であるペトルのワークは具体的に実践的だ。

とても印象的だったのが、初日と最終日に全員で行った巨大な風船を操るワーク、皆で輪になり手を繋ぎ、空想の巨大な風船を地面に落とさぬよう全員で持ち上げる。たとえるならば巨

2010年10月18日〜22日

芸能花伝舎(東京)

講師 バネラー ペトル・ヴトカレワ

バネラー 七字英輔 篠崎光正

翻訳 志賀重仁

担当 森井睦、黒川逸朗、小林拓生
参加者 ワークショップ28人(男13人・女15人)シンポジウム35人

大なバレーボールを垂直にトスをするといった所か。一見簡単そうに思えるが、これが実に難しい。全員が同じ形の見えない風船を認識し、同じタイミングで空に放つのだ。これを統一するには皆が全員の視線を追い、全員の身体の動きに気を配り集中しなければならぬ。最終日の最後に初日と全く同じシチュエーションで風船ワークが行なわれた。5日間連続の、言葉を超えて身体でぶつかり合い築き上げた、強い絆を皆に感じた。神聖な儀式のような荘厳な空間が、其処に生まれていた。「この世界には始めがあり、必ず終わりがやってきます。私達も今日を最後に別れなければなりません、皆さんとの出会いに感謝します。」とペトルは静かに語った。最後に皆で天に向けて放り上げた巨大な風船を参加者と共に私も確かに目撃した。



国際演劇交流セミナー2010 報告

ドイツ特集

資本主義にのみこまれた若者のポートレート
(報告＝棚瀬美幸)

ベルリンを中心に活躍する37歳の新進気鋭な演出家・アレクシス・ブークを招いてのワークショップ。国際的に演劇において交流するセミナーなのだから、大御所でなきゃいけないことはないはずなんです。ということで、若者といえるのかいえないのかという境目をいく30代をターゲットに、必ずというわけではなく密かに絞った企画でもありました。

サブタイトルは、「資本主義にのみこまれた若者のポートレート」。のみこまれているのは、作品世界の登場人物、もしくは若い俳優なのか、はたまた30代の演出家自身なのか……。ここを突っ込むことは止めにして、今回の売り文句は、「これが、世界に通用する『若者演劇』だ!!」とチラシに謳っています。

アレクシスは、現代社会の抱える問題を悲劇としてではなく、寓話化して喜劇的に舞台化する演出家です。代表演出作品の一つである、リーマンショックに翻弄された若者のディスコミュニケーションを描いた「インガとルッツ」という作品の一部のシーンを取り入れながら、3日間のWSは進んでいきました。

1日目は、シアターゲームをしながらの参加者の自己紹介から始まりました。その後、アレクシスが演劇の有効性について実体験を交えながら話

2010年11月21日〜23日(大阪、11月25日〜27日(東京)

精華小劇場(大阪)、芸能花伝舎(東京)、新宿村スタジオ(東京)

講師 アレクシス・ブーク

翻訳 大阪大学学生・院生有志(大阪)、水野明美・

秋野有紀(東京)

担当 棚瀬美幸(大阪、前嶋の(東京)

参加者 大阪WS19人(男9人・女10人)、大阪DVD上映&シンポジウム36人(男22人・女14人)東京WS15人(男9人・女6人)東京DVD上映&シンポジウム26人(男15人・女11人)

してくれました。アレクシスは、名門のドイツ演劇学校を卒業し、州立劇場で俳優としての研鑽を積んでから、演出家として活動を始めます。その経験から、ドイツ演劇教育について、ドイツの老舗劇場や若い才能が結集する人気小劇場の現場の実情についても話してくれました。

2日目からは、参加者が小さな特技を披露し、それをアレクシスが演出家として組み立ててミニパフォーマンスショーに仕上げていきました。そのショーの中には、「インガとルッツ」の手法も応用されており、演出家としての彼の個性を堪能できる内容でした。

大阪・東京ともに、協会には所属していませんが、活躍中の20代・30代の演出家が何名か参加してくれていたことが、企画側としては嬉しかったです。



国際演劇交流セミナー2010 報告

国際演劇交流セミナー2010 報告

韓国特集

ヤン・ジョンウン SHOWCASE
(報告＝田中孝弥・全リンダ)

2010年9月、国際ペン東京大会の基調講演スピーカーとして、カナダを代表する作家マーガレット・アトウッド氏が来日。大会の併催プログラムでアトウッド氏の最新作『The Year on Soliloquy』(洪水の年)のドラマティック・リーディング(朗読劇)が日本語上演されることになり、リーディングの制作を日本演出者協会が請け負った。主催は明治学院大学およびカナダ大使館。演出は2006年、国際演劇交流セミナー「カナダ特集」の講師として来日を果たしているアリサ・パーマー氏。出演は青井陽治・井上薫(俳優座)、高山佳音里(劇団昴)。翻訳は佐藤アヤ子(明治学院大学教授)。また朗読の間に差し挟まれる伴奏・合唱はカナダから4名のシンガーが来日して参加。アトウッド氏本人もナレーションで出演するという豪華なリーディングである。本番は明治学院大学チャペル(28日)、カナダ大使館オスカ・ピーターソンシアター(29日)の2回。

準備段階ではまずリーディング台本の和訳に目を通してキャストイングを行いつつ、平行して小説の原作を取り寄せて読み込んだ。舞台は近未来の北米。由来不明のウィルスが地球を襲いほとんどの人間は死に絶え、わずかに何人かがシェルターや崩れかけのビルの中に生き残っているという設定。現代社会を皮肉りつつ警鐘を鳴らすこの

2010年1月27日〜2月20日(大阪)
シアターぶらっ江坂
講師 ヤン・ジョンウン
翻訳 全リンダ・ジョン・ミン
担当 木嶋茂雄・全リンダ・瀬口昌生
参加者 40名(103人(男47人・女56人)、シンポジウム46人(男21人・女25人))

作品の面白さを、大幅にカットしたリーディングでいかに日本の観客に伝えるか。まだ小説が日本語で発売されていないため、リーディング台本だけでは難解な物語の背景をキャストに説明し、さらに翻訳の佐藤先生と相談しながら稽古場で出演者全員、頭を突き合わせて言葉を選んでいった。戯曲翻訳家でもある青井氏の創意に負うところも大変大きかった。本番の3日前に演出家も来日してディスカッションと通し稽古。

本番は幸いに両日ともほぼ満席で、短い準備期間で役をしっかりと掴んだ俳優3名の熱のこもった演技と生演奏を交えたリーディングは好評だったようである。普段の国際演劇交流セミナーとは違ったスタイルのイベントで手探りの運営だったが、素晴らしい作品と向き合い、新しい人達との出会いに恵まれた幸せな時間だった。



第4回 日本の近代戯曲研修セミナー

岸田國士『命を弄ぶ男ふたり』『女人渴望』

演出 林英樹 アドバイザー 今村忠純

岸田國士『チロルの秋』 演出 佐川大輔 アドバイザー 佐藤康
シンポジウム『近代日本の相貌―岸田國士とその時代―』

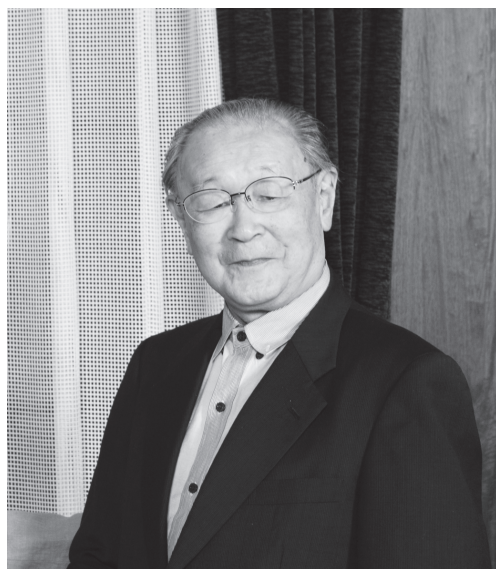
第4回日本の近代戯曲研修セミナーでは、岸田國士戯曲から三本取り上げました。『命を弄ぶ男ふたり』『女人渴望』の演出を林英樹氏、アドバイザーに今村忠純氏、『チロルの秋』の演出に佐川大輔氏、アドバイザーに佐藤康氏とそれぞれ担当していただき、数日間の研修と、リーディングは二日に分け、一日目にはポストパフォーマンストークを行い、参加者全員が発言し、二日目は演出家とアドバイザーによるシンポジウムが開催されました。

『命を弄ぶ男ふたり』は、台詞一つ一つを丁寧に考察し、「或ること」を言うために芝居を書くのではない。芝居を書くために「何か知ら」云うのだ、という岸田の有名な言葉を意識的に探っているように思える研修となっていた。『女人渴望』は、戦後の岸田戯曲を取り上げ、日露戦争から戦後までを生きた男性が思い描く女人像を底流に、一つの近代史を描いている作品であるが、このぼんやりとしてしまったような近代主体の中に、両篇に通じることであるが、哀切でありながら、おかしみが湧き起こるものであり、このような何とも言えぬような滑稽味を両篇とも研修を通して現れていました。

『チロルの秋』は、岸田國士初期の戯曲であり、フランス語で書き、それを翻訳した『古い玩具』が処女作であるなら、『チロルの秋』は日本語で

書いた最初の作品とも言える。舞台はチロル地方、登場人物も一人を除いては外国人ということもあり、台詞もどこか浮世離れしたような調子であるからか、なかなか上演される機会が少ないものである。アドバイザーの佐藤康氏はフランス演劇の専門ということもあり、戯曲に潜むフランス劇の影響を解説し、リズムや横文字のアクセントなどを丁寧に指摘することで、岸田が念頭においていたであろう台詞にある調子を考察する契機にもなりました。

シンポジウムでは、今村忠純氏から岸田國士についての説明があり、佐藤康氏からは岸田が師事したジャック・コポーと当時のフランス演劇の状況に対する鋭い説明がなされた。会場からは、ルナール作品との関係や、「或ること」が岸田にはないというよりも、それを秘めて出していることについての指摘もあり、時間制限がなければ話は尽きなかった程の盛会であった。



撮影＝岡本隆史

追悼・戌井市郎先生

西川信廣

創立以来73年間、大黒柱として文学座を支えてこられた戌井市郎先生が亡くなりました。

大正5年、京都で生まれ、昭和10年創作座に入座して演劇人生をスタートさせ、昭和12年の文学座創立に参加して以来、文学座一筋でやってこられた先生。その死で、劇団文学座の創立メンバーは誰もいなくなりました。

『女の一生』『華々しき一族』『ふるあめりかに、袖はぬらさじ』『華岡青洲の妻』など故・杉村春子主演で劇団の数々の代表作を演出し、歌舞伎、新派、商業演劇などで幅広く仕事をされ、その舞台は上品で色気があり、華やきのある舞台が多かった。演出家として常に意欲的で、最近では平田オリザ書き下ろし作品を手掛け、企画の会議には何本も企画を出されていた。おまけに90歳になられた4年前からは俳優として舞台にたたれ、その見事な演

技で俳優たちを感嘆させた。

よく、文学座は演出家が育つと良く言われる。色々、理由はあるのだろうが戌井先生の功績が大きいと思っている。むかし、木村光一さんが「戌井さんは、心の広い人だから僕も、君たちも演出のチャンスを与えられた。感謝しないといけないよ」と言われたことがある。創立者としていつも次代に劇団を支えてゆく演出家の育成を考えておられたのだと思う。本当に感謝である。

葬儀のあとに、先生の個人アルバムが劇団にあった。昨夏、何かを感じられたのか「万一の時はこの中から写真、使って下さい」と文芸部に託したそう。その中に、私のとツーショットがあった。横に自筆で「僚友」と書かれてあった。とても嬉しく、そして寂しくなった。

合掌

部会だより

事業部

11月の旭川から、1月横浜、盛岡、2月愛知、高知、3月廿日市と各地で「演劇大学」が開催されました。今回が初の開催となる地も多かったのですが、実行委員の皆様方の努力と積極的な参加者の力で、無事成功しました。各地のニーズに合わせた「演劇大学」。3年後には地元実行委員だけでやれるように、という目標をもって今後も続けます。

「若手演出家コンクール」は10年目。10周年ということで審査員の顔ぶれも新し、3月6日に最終審査会が行われました。審査員それぞれの演劇論がみえる白熱した審査会となりました。受賞チーム同士の交流も活発に行われており、今後の活動が楽しみです。

「近代戯曲研究セミナー」も引き続き開催されています。初めて近代戯曲に触れる若手から中堅・ベテランまでがともに「読む」貴重な機会になっています。（小林七緒）

国際部

昨年下半年は、6企画が行われ、国際部の活動は非常に充実していたといえる。当初ビデオワークショップという画期的な企画であったベルギー特集は、参加者に恵まれず、今後のセミナー運営上、課題を残したが、グルボフの代表作『ルワンダ94』の上映など、彼らの活動の一端を知ることができ、価値のある企画だった。イ・ユンテク氏を講師に迎えた韓国特集は、ユンテク氏の俳優誘導術が巧みで、その後、海を越

え氏の劇団に参加した者もあると聞く。また期間中に、氏の東京大学での特別講義、タイニヤリスでの劇団公演などもあり、多角的に氏の方法論に出会えた。カナダ特集は、国際ペン東京大会の要請を受け、急遽開催することになった企画だが、マーガレット・アトウッド氏の未翻訳作品の朗読、作者自身による朗読などがあり、充実したセミナーとなった。モルドバ特集はペトル・ブトカレウ氏によるワークショップと、シンポジウム。氏の演出する舞台での俳優の優れた身体性は広く知られるが、そういった俳優をどう生み出していくのか、演出者・俳優にとって、その手掛りを示す貴重なワークショップが行われた。

これらはいずれも東京で企画したものが、ここ数年、大阪発信のセミナーも増えている。今年度もドイツ特集、韓国特集（ヤン・ジョンウン氏）と2企画がそうで、ドイツ特集は、新鋭アレクシス・ブーク氏を迎え、大阪、東京で開催された。また、韓国特集は、講師との共同作業を通じて、作品に結実させるという今後のセミナーの在り方を問う企画だった。今年度は、東京からロシア特集、ポーランド特集、大阪からスイス特集、中国特集の4本が企画された。各々が二箇所開催の予定だが、かの原発問題でロシア特集は、現在延期となっている。（篠本賢一）

広報部

協会誌を創刊して3年が経ちました。演出者の集まりとして公的な責任を果たし、なおかつ会員同士の人間的交流に役立ちたいと無我夢中で走ってきました。諺にもある通り三年という期間は、それなりの時間

かと思いますが、今6号を発行して後ろを振り返ってみますと、未だ協会の問題点も多く見られます。広報部を預かる者として、まだまだ先は遠いなど正直思うのですが、他の団体が気づきづに法人の形を変え、現代社会のニーズに対応していく有様を見るにつけ、わが協会はこれよりいかに心配になります。そんな状況のころへ突如大地震が起き、改めて公的な責任を思い知らされました。演劇に何ができるのか。協会誌「D」は協会が何をやったか、を記録します。もちろんお金の無い協会ですから、ページを増やす事はできませんが、凝縮して協会の活動を記事にしています。ですからこの大地震への協会の対応は7号に載ることになります。広報部も次号の編集では凝縮作業に知恵を絞らなければならぬでしょう。また、協会誌創刊時から創業に盛り込まれていた協会ホームページですが、やとと経済的に協力してくれる業者が見つかり緊急発進することになりました。協会がなにをするのか、をリアルタイムで発信していきたいと思っています。最後に会員の皆さまに訴えたいのですが、広報部では人手がまったく足りず、熱意ある広報部員を探しています。どうか会員のみなさまのご理解をお願いいたします。（篠崎光正）

地域交流部

これまで通り、演出家の権利や適正な演出料契約やロイヤリティーなどについてキチンと対応して行かなければならないと思っています。適正と思われない契約等がありましたら法務部へご連絡下さい。また、新公益法人への移行、劇場法（仮称）についても関係団体と連絡を取りながら対応

していこうと考えています。他に、これは法務だけの問題ではありませんが、日本版アーツカウンシルの創設について、その動向も注視していかなければと考えています。これらに関する情報や疑問点がありましたらご連絡下さい。よろしくお願いいたします。（西川信廣）

法務部

これまで通り、演出家の権利や適正な演出料契約やロイヤリティーなどについてキチンと対応して行かなければならないと思っています。適正と思われない契約等がありましたら法務部へご連絡下さい。また、新公益法人への移行、劇場法（仮称）についても関係団体と連絡を取りながら対応していこうと考えています。他に、これは法務だけの問題ではありませんが、日本版アーツカウンシルの創設について、その動向も注視していかなければと考えています。これらに関する情報や疑問点がありましたらご連絡下さい。よろしくお願いいたします。（西川信廣）

日本演出者協会 協会の事業担当

【理事長】和田喜夫

【部会】部会・担当事務部員

【事業部】小林七緒◆青井陽治、鶴山仁、川徳之助、木村繁、坂手洋二、篠崎光正、宮田慶子、流山児祥◆（東京）千葉哲也、外波山文明、林英樹、羊屋白玉、松森望宏、（関西）井之上淳、金子順子、木嶋茂雄、田中孝弥、棚瀬美幸、椋平淳、森本景文、山口浩幸、芳川雅男◆（東海）鹿目由紀、菊本健郎、齊藤敏明、竹内菊、はせむらいち、トリエウスケ◆（熊本）亀井純太郎、山南純平、（仙台）渡部ギウウ、（札幌）清水友陽

【国際部】篠本賢一◆森井睦、青井陽治、鶴山仁、貝山武久、坂手洋二、堀江ひろゆき、松本祐子◆（東京）青柳敦子、家田淳、小林拓生、黒川逸明、佐々木治己、左藤慶、中野志朗、林英樹、洪明花、前嶋の、松森望宏◆（関西）坂手日登美、全リンド、田中孝弥、棚瀬美幸、土橋淳志、（東海）佐久間広一郎、ほりみか、本島勲◆（仙台）いとうみや

【広報部】篠崎光正◆菊川徳之助、篠本賢一、森井睦、流山児祥◆（東京）秋葉舞滝子、糸山裕子、井上ほりーん、磯村純、今井夢規、大杉良、小川功治朗、黒澤世莉、桑原秀一、ゴトウモエ、鈴木美恵子、長沢けい子、林未知、平尾麻衣子、三谷麻里子、緑川憲仁◆（関西）木嶋茂雄、田中孝弥◆（東海）ほりみか◆（教育出版部）ふじたあさや◆青井陽治、鴻上尚史、流山児祥◆（東京）佐々木治己

【法務部】西川信廣◆鶴山仁、小林七緒◆【地域交流部】流山児祥◆鴻上尚史、坂手洋二、深津篤史◆（熊本）村上精一◆（東海）水野誠子、（仙台）なかじょうのぶ◆【観劇案内】（東京）遠藤栄藏◆（関西）木嶋茂雄◆（東海）金子康雄

【本祐子】【監事】中村孝夫、福田悦雄◆（関西）栗田尚右、今泉おさむ◆【評議員】内山鶴、瓜生正美、栗山民也、福田善之◆【事務局長】大西一郎◆【副事務局長】篠本賢一、斉藤由夏◆【事務局】上田郁子◆（関西）木嶋茂雄◆（東海）金子康雄

各地域活動通信

東海ブロック

東海地方で今活躍している若手(20代)は演劇組織KIRYO、オレンジスタ、放電家族、チェルシイとバニーガール、劇団オートバイなど。演劇組織KIRYOの宮谷達也は昨年の演劇大学で寺山修司を演出し今年は若手演出家コンクールで話題になった。劇団オートバイの麻原奈未は今年の演劇大学で韓国戯曲『ちゃんぽん』の演出をした。それより上の世代(30代)で活発に動いているのは、劇団あおきりみかん(鹿目由紀主宰)、オイスターズ(平塚直隆代表)、テラ・インコグニタ(塚田泰一郎代表)、スクイジーズ(関戸哲也代表)。このうち鹿目由紀と平塚直隆は今年の若手演出家コンクールで優秀賞をW受賞。塚田泰一郎は演劇CAMPin中津川に書き下ろしを提供、関戸哲也は演劇大学で韓国戯曲『人類最初のキス』を演出。どう独自性を出していくか期待の演出家たちだ。

総合劇集団俳優館が2月に制作した『新劇百年〜珠玉の戯曲集』は代表の森剣の企画。ふじたあさやの総合演出。岸田國士作・ふじたあさや演出「葉桜」、久保田万太郎作・木村繁演出「釣堀にて」、木下李太郎作・菊本健郎演出「和泉屋染物店」、真山書果作・佐藤友彦演出「玄

朴と長英」、秋田雨雀作・川村ミチル演出「国境の夜」、森本薫作・鹿目由紀演出「みごとな女」、山本有三作・ほりみか演出「海彦山彦」、小山内薫作・佐藤友彦演出「息子」、真船豊作・ふじたあさや演出「水泥棒」、田中千禾夫作・鹿目由紀演出「おふくろ」、菊池寛作・菊本健郎演出「時の氏神」、中村吉蔵作・木村繁演出「剃刀」の12戯曲である。参加者も新劇、アングラ、小劇場、ミュージカル、狂言と多彩、はじめて近代戯曲を読む者も多く、若手演劇人の中に近代戯曲の記憶が刻まれた意味ある公演となった。【木村繁／東海ブロック代表】

関西ブロック

精華小劇場の閉館。扇町ミュージアムスクエアの後継となる大阪の「拠点劇場」として、2007年秋に大阪・ナンバに設立された精華小劇場(元精華小学校の跡地・客席数約200)が今年度末(2011年3月31日)をもって閉館する。大阪市の財政難により処分検討地となり、今回の閉館に至った。関西の劇団をはじめ、全国的に活躍する劇団の大阪公演の受け皿となっていた。劇団公演のみならず、舞台芸術に関わる新人育成事業の一環としてワークショップを開催し、

観客とのより一層の親交を深めるためにアフタートークやシンポジウムなどを企画・実施してきた。他にも地元住民をはじめ広く市民に優れた芸術とふれあう機会を提供するため、ジャズフェスティバルや映画祭なども開催してきた。精華小劇場を監督する「大阪市ゆとりとみどりの振興局」は、この閉館について、「この事業成果を継承しさらに発展させていける舞台芸術振興事業を検討していく」と、述べている。大阪・梅田北ヤードの新劇場について。現在、先行開発中の梅田北ヤード「ナレッジキャピタル」内に、新しい劇場がオープンするらしい。(2014年オープン予定。客席数400・小劇場仕様の客席数200にも可変する設計)2011年2月22日、現在の状況報告及び、地元や関西の実演者の意見を反映させるための意見聴取会が精華小劇場にて行われた。中心となっているのは、大阪大学の平田オリザ氏。精華小劇場が閉館となるため、平田氏もこの新しい劇場を「ポスト精華小劇場」と位置づける考えを示している。しかしながら、この意見聴取会の開催連絡が2月20日(実施2日前)であり、スケジュール調整が叶わず参加することが出来なかった。情報の更なる公開と議論を期待する。

【木嶋茂雄／関西ブロック事務局長】

札幌

演劇による創造都市実現プロジェクト

札幌の特徴として「民間主体の演劇活動」がしばしば挙げられます。シアターZOO(北海道演劇財団運営)、生活支援型文化施設コンカリーニョ、演劇専用小劇場BLOCHといった民間の劇場を中心に、約100団体ほどの劇団が公演を続けています。2010年には「演劇による創造都市実現プロジェクト」が立ち上がり、「100人の演劇人が活躍する街」をスローガンに、札幌で職業として演劇に従事する演劇人が100人誕生する事を目標にして活動をはじめました。その始動として、2011年3月には劇団5によりレパートリーのうち3作品の連続上演という形で一ヶ月のロングラン公演が行われました。また、2011年冬には札幌演劇シーズンと題して、シアターZOOとコンカリーニョがタッグを組み、隔週2週間ずつ、計一ヶ月に渡りレパートリー作品の上演を行う予定です。これは毎年11月から12月に、道内外約40団体が参加する「札幌劇場祭(Peach Go Round)」の時期とも重なり、その中心を担うことになりそうです。

上田現市長の公式マニフェストに「演劇など舞台芸術を振興」が挙げられた事もあり、今後、行政との連携プレーも期待されます。札幌四季劇場の始動と共に行われる「常にな質な再演作品が行われている街づくり」というビジョン。そ

岩手

被災地から演劇文化の息吹を!

岩手の演劇人には、幸い震災で亡くなられた方はおりませんが、震災直後は公立ホールの被害や電力の問題もあり、公演中止・延期が相次ぎ、夏以降の公演やイベントについても実施可否の判断が留保されているものもあります。

「演劇どころではない」という声、また「文化活動の自粛が度を過ぎている」という声もあります。未曾有の災害を体験した私達です。復興を支える力、祈り、心の癒し、そしてこの震災の語り部として、演劇文化の果たすべき役割が今問われているのではないのでしょうか。

NPO法人いわてアートサポートセンター(盛岡の演劇人らで組織され小ホール「風のスタジオ」を運営)も参加している「3・11絵本プロジェクトいわて」は、4月16日現在で全国から10万冊以上の絵本を集め、三陸沿岸の被災地の子どもたちに贈り届けています。また、音楽・美術の関係者らとともに「いわて文化ボランティア」の情報交換ネットワークを立ち上げました。壊滅的な被害を受けた沿岸地方に比べ、盛岡は大きな被害もなく比較的平穏ですが、親戚・友人が沿岸で被災され深く心を痛めている人も少なく

れに耐えうる作り手側の質が、今後はいっそう問われることになりそうです。

【橋口幸絵】

ありません。文化催事の自粛ムードですが、被災地の県だからこそ文化の力で故郷を再生させたいと思います。

被災地釜石の劇団の代表者が「なんと少しでも秋に予定していた公演は実現する」と語っています。他の岩手の演劇人たちも経済環境、公演環境が厳しい中で、同じ思いを胸に秘めていると思います。岩手は戦後荒廃した大地を文化の息吹で復興させようと、県として全国で始めて芸術祭を開催した県で、当時の演劇人たちはその中枢で活動しました。被災地の文化活動を全国の演劇仲間では是非、ご支援いただきたいと急じています。

【坂田裕一／岩手県演劇協会会長】

福岡

その日、記念すべき九州新幹線全線開通前日。

プレオープンした博多駅ビルは連日の賑わいを見せていた。

あの日、私の誕生日。

フェイスブックには時差分遅れの、祝福のバースデイメッセージが次々と届く。それが、いきなり変化をみせた。

「マキ！ 大丈夫なら返事をちょうだい！」

海外の友人にすれば私が暮らす福岡など、被災地が東北としてもアジアの片隅にある小さな島国のひとつに過ぎない。

私は被害が甚大だった福島に住む友人

と連絡がとれず、その安否が気がかりでならなかった。それから二週間が過ぎようとする頃、私は九州一の繁華街である天神で「チャリティー募金パフォーマンス@福岡!!」というイベントを通し、長期に渡り義援金を集めることにした。ここでは創作ダンスや一人芝居、音楽ライブなど様々な表現活動が行われ、往來する雑踏はしばし足を止め、募金に快く応じてくれる。

また多くの公演では、出演者自らが募金箱を手に義援金をお願いをし、舞台規模の大小に関わらず、ホールにも募金箱が置かれている。しかし、その一方で今年の福岡演劇フェスティバルの目玉であった「バル・フレナック・カンパニー」の東京・福岡公演が、放射能汚染の問題を受けて中止となった。過剰な反応ともいえる結果が残念だが、福岡の観光宿泊施設では12万人分がキャンセルになっていることもあり、これも受け止めなければいけない現実のようだ。

あの三月十一日を境にして、確かに何かが変わった。なおも予断を許さない原発問題。不安に曝されながらも、懸命に生きようとする被災者の人々。いつかのあの笑顔を取り戻すためにも、舞台という表現の場を借りて何ができるか、その可能性を信じたい。

【倉園眞記／福岡ブロック副代表】

理事会報告

総括的には、各事業についての詳細報告や問題点の議論、解決策、新規案件についての議論が成されています。

例えば中津川に関する案件や50周年事業に関する案件についてなど、総論的政策の確定後に各実効委員会が立ち上げられ、詳細各論について話を練り、詰めてゆく流れになっています。そこでの議論も常に理事会に報告し議事に諮られ、フィードバックをしながら事業進行をしています。

各理事の出席状況は各自の公演等に影響されており、その点はご理解賜われたいと思います。

本文記述者の大西は、無計画停電の影響で参加できなかった3月25日以外は出席しており、この点にご報告させていただきます。

【10月8日】

出席理事・和田喜夫（理事長）、瓜生正美、小林七緒、篠崎光正、篠本賢一、宮田慶子、流山児祥、大西一郎（事務局長）（出席：8名）

1事業報告

☆演劇 CAMP in 中津川…事業総括報告
☆国際交流セミナー カナダ特集…決算報告

☆国際交流セミナー 韓国特集…企画内容案報告、検討

☆国際交流セミナー ベルギー特集…事業報告

☆協会誌「D」編集報告

☆演劇大学 in 旭川…事業報告

☆国際交流セミナー ドイツ特集…事業報告

☆若手演出家コンクール二次審査…進行状況報告
☆日韓演劇交流センター演出家募集…募案など。

2 2011年度事業について
☆文化庁助成申請について…詳細についての報告、見込みなど。
☆第二回日韓演劇フェスティバルの申請について議事。

【12月26日】

出席理事・和田喜夫（理事長）、瓜生正美、貝山武久、菊川徳之助、木嶋茂雄（関西ブロック事務局）、小林七緒、堀江ひろゆき、森井睦、流山児祥、大西一郎（事務局長）（出席：10名）

1事業報告

☆若手演出家コンクール2次審査の審査結果報告及び経過報告。優秀賞者4名の表彰についての報告。

☆演劇大学 in 旭川…事業報告。

2 2011年3月までの事業に関する事業計画報告及び確認。

☆演劇大学 4地域について（盛岡、横浜、愛知、高知、広島）

☆国際交流セミナー 韓国特集に関して☆日本の近代戯曲研修セミナー 3ヶ所での事業案について（東京、札幌、関西）

☆若手演出家コンクール最終審査会に向けた進行に関して及び最終審査会について

3 平成23年度助成金申請事業計画に関する立計画及び進行報告 5事業

1 演劇大学

2 国際交流セミナー

3 若手演出家コンクール

4 日本の近代戯曲研修セミナー（東京・関西・札幌・名古屋）

5 出版

【2011年2月23日】

出席理事・和田喜夫（理事長）、青井陽治、瓜生正美、貝山武久、篠崎光正、篠本賢一、ふじたあさや、宮田慶子、森井睦、大西一郎（事務局長）（出席：10人）

☆ホームページ リニューアルについてのプランニング及びスケジュール提示。予算案報告及び承認。

☆創立50周年記念企画@下北沢 本多劇場に関して、実行委員会報告及び企画案について。

☆若手演出家コンクール 最終審査会について企画報告及び進捗状況報告

【3月25日】

和田喜夫（理事長）、青井陽治、貝山武久、小林七緒、篠崎光正、篠本賢一、中村孝夫、松本祐子、宮田慶子、森井睦、流山児祥（出席：10人）

☆50周年事業延期に関する報告及び議事。☆若手演出家コンクール 最終審査結果報告。

☆「D」の編集方針内容について、当初案から東北関東大震災の影響を鑑みた内容について等議論された。（副事務局長・齊藤由夏）

文責：大西一郎

（日本演出者協会理事・事務局長）

新入会員紹介

(11年2月まで)

吉岐武志 (いき・たけし)



▼PROJECT「カイア代表」▼1989年九州芸術工科大学卒業▼1992年ゼン・ヒラノに師事、以後10数年、直接指導を受ける。▼1997年『アルジャーノンに花束を』製作、脚色、演出。ぴあ年間ベスト50に選ばれる。http://www.youtube.com/watch?v=jPyQ3dF5Y

以後、さまざまな作品に出演、また演出。メソッド・アクティング、「マイケル・チェーホフ」の方法を経て、独自の演技アプローチを構築、様々な劇団にて演技指導を行う。▼現在、ツイッターにて演技論を展開中。http://twitter.com/Okaki

大竹宏枝 (おおたけ・ひろえ)



▼SNSカンパニー所属。俳優・演出助手。▼福島県会津若松出身。▼2010年4

月、演劇学校の同期4名と事務所「SNSカンパニー」設立。2011年5月よりネットラジオ配信決定。▼演出の世界には足を踏み入れたばかりのひよっこです。普段は俳優業(舞台・映像)を中心に行っており。各演出家の方々とお付き合いくうちに自身も演出に携わりたいと、生意気にも思い現在勉強中。役者の視点とはまた違った客観的視点、空間認識の面白さと難しさに日々領いたり

嘆息したりしております。▼「生きた人間の存在」を板上に。魔法使い、またはマエストロを目指して日々精進して参ります。「その前にお前役者としてもまだまだだろっ!!」ってな声が聞こえてきそうですが、好奇心の塊故に、ご容赦下さいればと思う所存です。

奥裕美 (おく・ひろみ)



▼現在養成所にて演技を勉強中の身です。初めて演出したのは高校生の中で『赤ず

きんちゃん』です。近隣の保育園より子ども向けの劇を依頼があり、子ども向けの知識もないままやってしまいました。その後保育科のある短大へと進学し、児童文化研究会に入部。ぬいぐるみ劇、歌や踊りのショーなどの脚本、演出をしました。▼保育園に5年勤務し、主に2・3歳児を担当。発表会などの劇あそびを指導したことがあります。▼一昨年、演劇大学えひめに参加し、協会に入会しました。まだまだ勉強中の身ですが、よろしく願います。

鎌博子 (かま・ひろこ)



▼演劇ユニット 放たれ小僧 主宰▼大学では一応演劇学科という所に在籍したがあきたらず中退。アマチュア演劇の可能性を追求して労働者演劇に参加、俳優をつとめる。また、地域を拠点とする劇団にも参加する。演劇のもつ批評性を軸とする芝居づくりをしている。作品や演

技の批評性はもちろんのこと、それが成り立っている表現の根拠や、観客との関係を考えていきたい。▼演出の実績はまだあまりないが、これから。▼世界の演劇へのアンテナ、日本の現状へのアンテナが不可欠と思ひ、演出者協会に入会させていただいた。▼演劇ユニット放たれ小僧は新しく立ち上げた集団で、今秋、金志勲作『屋根裏の床を掻きまぐ男たち』を上演する予定。▼「演劇に不可欠な要素は思想・真情・漲る自由

公家義徳 (こうけよし のり)



▼東京演劇アンサンブル所属▼NHKアクトスゼミナールを経て、1994年

入団。▼2007年『明日を紡ぐ娘たち』／『広渡常敏』を初演出。▼2009年『ラリー ぼくが言わずにいたこと』では脚本・演出に挑戦。▼それ以前は俳優として活動を行ってきた。

1999年『桜の森の満開の下』山賊役 ロンドン・ウラン・ウデ公演。2003年『走れメロス』メロス／セリヌンティウス役 ソウル・光州・釜山公演。2005年『桜の森の満開の下』ベルファスト・ダブリン・コーク公演。▼2006年プレヒト没後50年には、アジアで唯一、ベリリーナアンサンブル劇場からの招待を受け『ガリレイの生涯／プレヒト』ガリレイ役を演じた。▼練馬にあるプレヒトの芝居小屋を根拠地とし、プレヒト、チェーホフ、久保栄など数々の大作に挑みながら、演出家広渡常敏の下で演劇を学んできた。ナイーブ

な世界を求めて、演劇が人間の生き方そのものであるような作品創りを、これからも模索していきたい。

こむろこうじ



▼岩手県三陸沿岸の街を転々とし、それぞれの街で仲間を募って、作・演出を

しながら舞台を創っている。地元を取材し地域のニーズに対応するような、地域の民話を素材にした舞台や、津波・火災などの災害を題材にした芝居、エンターテイメントに徹した舞台等を手がける。▼2011年3月11日の津波で、陸前高田や釜石などで公演を行ってきたホールや仲間を失う。▼現在は久慈市を拠点に活動。人口3000人の地域で500人の集客ができる舞台を発信している。▼活動の様子は、『R45演劇海道』というブログ参照。

関谷真司 (せきや・しんじ)



▼ファッションショーや各種企業イベント、式典、講演会等ステージ演出を

しています。▼今の仕事には誇りを持って取り組んでおります。▼しかし演劇の演出や、俳優というお仕事には以前からかなり興味を持っていました。▼実は私は、演劇分野の演出は経験がありません(入会の際にはお伝えしてます)▼それに台本は書きますが、脚本は書いたことがありません。▼今回入会をした理由もそういった自分の経緯があるのも一つで

す。▼今年で42となり、けっこう年齢も重ねてしまっていますが、この度の演出者協会入会を、いききかけとし「演劇」分野に入り込んで行ければな。と思っております。▼もちろん、今の仕事も続けます。▼今後とも、宜しくお願いします。

高田百合絵 (たかた・ゆりえ)



▼東京で活動する劇団、快楽のまばたき主宰。NPOARCタイニアリスア

シスタントプロデューサー。今までに寺山修司氏の作品『星の王子さま』『花札伝説』やオリジナル『火蝶が七』の演出を手掛ける。2011年9月には寺山修司作品『大山デブコの犯罪』を上演予定。演出家という歴史の短いポジションに最近加わったつまり若造の中の若造です。あまりの破天荒ぶりに怒られることが正直多いですが、怒ったり怒られたり演出したりしているうちに人生なんて終わっちゃうんだからやりたいようにやらせていただいています。感謝。▼まだ微力ですが、私の演劇が誰かの心で革命となりますように。

難波善明 (なんば・よしあき)



▼劇団じゃけん主宰。『天女降臨』『5つのイーゼル』『夢を超えて』等のオリジナル戯曲の演出の他、岸田國士やA・チェーホフ、O・ヘンリ等の短編作品の演出にも挑戦しています。また、演劇を身近に楽しんでいただきたたいと考え、町のお蕎

麦

表屋さんを演技空間として使用する等のSALON演劇を企画し、シリーズ化したりもしています。この春からは、もっと演劇に拘ってみようとの思いから、有名劇作家の戯曲を連続で上演する企画をスタート。第一回目は、別役実さんの作品を上演させていただき、戯曲の良さに支えられ、お客様に喜んでいただくことが出来ました。これからも演劇の力強さを信じ、シンプルで骨太な演出を目指して精進していきます。

橋口幸絵

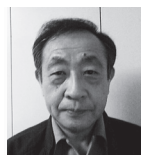
(はしぐち・ゆきえ)



▼劇作家・演出家。
1999年「劇団千年王国」結成、主宰を務める。『SL』(05)平成17年度札幌市民芸術祭奨励賞、『イザナキとイザナミ』古事記一幕(06)日本演出者協会主催若手演出家コンクール2005最優秀賞・観客賞、『ファイト!』(07)遊戯祭07中島みゆき論最優秀賞、『鷹作者』(ガンサクモン)『(09)札幌劇場祭 舞台芸術賞大賞受賞。演劇大学in札幌実行委員。美唄市民劇団で脚本・演出を担当。動物園専用劇団「千年BOO」を結成し、小学校への児童劇宅配なども行っている。▼たくさんの皆様と協力したり、殴りあったりしながら、共にうんうん色んな事を考えて実行できればと思っています。共に生きてゆきましょう。どうぞよろしくお願ひいたします。

笛田宇一郎

(ふえだ・うちろう)



▼1976年、劇団早稲田小劇場入団。『リア王』、『ディオニコソス』などで主役を演じる一方、海外の俳優指導や池袋アトリエ開場記念公演の演出などを行う。1990年〜1992年、水戸芸術館常任演出家として3作品を演出。1995年、第二回読売演劇大賞優秀男優賞受賞。1996年、劇団を退団し笛田宇一郎演劇事務所を設立。その後、(二十一世紀演劇シリーズ)3作品、(現在/演劇シリーズ)3作品、『激しく待ち焦がれながら/悪こそ未来』『トライアルE』『マクベス』などを演出。2008年、シンガポールの演劇教育機関TRPで身体技法を教え、卒業公演として『ハムレットマシーン』を演出。著書、『二十一世紀演劇原論』『身体性の幾何学(エチカ)』。

富士川正美

(ふじかわ・まさみ)



▼Pカンパニー所属。1966年生まれ、岡山県出身。創造ユニット「モミクス」を立ち上げ、音楽朗読劇『茶色の朝』などを企画・演出。Pカンパニーでは別役実作『ボンコツ車と五人の紳士』などの演出を担当。NPO法人「音楽夢工房オフェリア」の設立にも参加し、子どものための音楽劇『オフェリアと影の一座』『てぶくろを買いに』などを演出した。来年は市民オペラにも挑戦します。▼戦後の復興をもう一度やりなおさなければ

ならない状況です。もう沖縄や福島など一部の地域の人々の苦しみの上に立った繁栄は繰り返せません。人と人とのつながりの場である「劇場」という私たちの職場から、あるべき社会の未来図を一緒に描いていきましょう。

舞香

(まいか)



▼ムカシ玩具(おもちゃ)座長。小5で初舞台、中2で加藤健一事務所公演に出演。それ以来ずっと芝居漬けに。中央大学第二演劇研究会出身。2004年、「ミニマムでマキシマムな舞台をー」をモットーに劇団ムカシ玩具を旗揚げ、全作品を作・演出。04年E-1グランプリ全国大会優勝。07年から中原中也、金子みすず、宮沢賢治の、その詩と死を描いた舞香一人芝居、作家評伝劇三部作を連続上演。09年、アイヌの天才少女「知里幸恵」の生涯を描いた一人芝居『神々の謡』を上演。▼多くの新聞に紹介され、翌年、知里幸恵記念館の開館記念として生誕の地・登別に招かれ公演。オリジナルから古典、ベストセラー小説まで幅広い作品世界に挑戦しています。

眞鍋卓嗣

(まなべ・たかし)



▼東京都出身。大学在学中から音楽活動、演劇活動を平行して始める。1998年に自身のバンドでメジャーデビュー、2001年まで活動。2002年俳優座

研究所入所。劇団俳優座文藝演出部所属。
▼【主な演出作品】俳優座「ABO」『犬目線/握り締めて』(作・スエヒロケイスケ) 2009年▼TBSアナウンサー『星の王子さま』朗読会 2010年▼俳優座LABO「制服」(作・安部公房) 2011年▼【演出助手として関わった主な作品】▼『春、忍び難きを』(作・斉藤麟 演出・佐藤信)▼TBS主催『トゥーランドット』(演出・宮本亜門 音楽・久石譲)▼東京二期会オペラ『オテロ』(演出・白井晃)

山本つづみ

(やまと つづみ)



▼俳優・演出家▼福岡県出身。大阪府立大阪女子大学卒。現在大阪在住。▼子どもの頃からお芝居、こをしながら、思えばそれが私の演出デビューです。ともあれ本格的に舞台の演出を始めたのは、1997年。それ以降役者に加え、演出、制作として舞台に関わっています。ここ数年演出の仕事が多くなり、自身も「演出家」であるとの自覚をやっと持つことができたので、協会に加盟させていただくことにしました。よろしくお願ひいたします。▼主な演出作品・VOICE企画『エレクトラ』丑の会『ミ・ライ』(財)

大阪市女性協会「朗読劇ひまわり」DVDをのりこえて〜堺シテリオペラ『ヘンゼルとグレーテル』

アンケート データで見る地震対応

今回は東日本大震災による東京の小劇場公演の上演・中止のデータを収集しました。

このたびの大規模地震により被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

さて、今回のデータに関しては通常の演出者協会のデータではなく、地震の特集として東京の小劇場で公演する団体が、今回の地震により公演の続行・中止・延期の決断をどのように考えたのかをアンケートしました。対象の選定については、小劇場を使用する小団体としました。その結果、ちょうど3月に開催されていた杉並演劇祭の参加団体を調査しました。もちろん、参加団体すべてではなく、地震発生日から月末までを調査機関としたため、調査団体数は少なくなりましたが、各団体の「協力をいただきました」という結果となりました。

まとめ・上演・中止は半々という結果となった。もちろん各団体の決断の状況はそれぞれ異なるが、アンケート回答のうちの一部を紹介して、小劇場を使用する団体の苦勞をご理解願いたい。また、地震当日の団体は中止を余儀なくされたが、それ以降の団体に限っては、計画停電による劇場使用・観客の帰りの交通手段などの心配からの中止が多が見られた。

さて、各団体へのアンケート内容は以下の通り。

問①震災時にはどのような状況でしたか？（稽古中・上演中など）

問②震災直後、公演に関してはどのように考え、そしてどのような対処をしましたか？

問③上演劇場サイドとはどのような話し合いをしましたか？

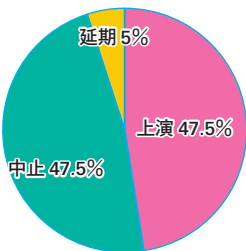
問④経済的な損失などを教えてください。

問⑤その他、あなたが思う事、訴えたい事など記述願います。

回答例 A

①稽古中

②3月17日に公演中止を決定しました（3月25日初日予定）。震災後、予約がぼったりと止まったことや、お客様の安全確保も困難と判断し、中止の



③上演劇場であるザムザ阿佐谷の揺れ方が思いの外激しく、劇場サイ

判断をしました。

③震災後のスペースの状況をヒアリングしました。入り口の土壁が落ちていたそうで、できれば延期を望まれました。

④稽古場費、チラシデザイン・印刷費などで6万円程度の損失です。

⑤今回の件で、集客よりも日ごろの創客活動が大切だと実感させられました。また、このような事態で中止をしても、損失は確実に発生しますが、公演への地震保険のようなものは無し。（あるのかもしれない）日本のような地震が必ず発生する地盤の国では、公演へのリスク低減措置として地震保険のような方策は必要かと思えます。それを事業ごと劇団ごとに行うのか、文化事業振興組織や自治体などが一括して行うのか、今後議論があって良いと思います。

回答例 B

①マチネ公演（3ステージ目）上演中

②上演中に地震が起きたため一時的に中断、お客様に地下の場内から地上へ避難していただきました。15分ほど様子を見て、落ち着いてから再開するつもりでしたが、地震が起きた際に劇場設備（照明、舞台装置、客席）が大きく揺れたこと、それにより、お客様、キャスト、スタッフの動揺が大きかったこと、また今後上演中に大きな余震が来た場合、ザムザ阿佐谷の劇場設備ではお客様の安全を保証できない可能性があると考え、中断した公演をその場で中止し、お客様へはチケット代の払い戻しを行いました。同様の理由で以後の公演日程を全て中止としました。

③上演劇場であるザムザ阿佐谷の揺れ方が思いの外激しく、劇場サイ

ドとしては、お客様の安全を優先するため、地下の劇場、2階映画館、3階レストランの全てを閉館するかもしれないとの意向でした。お客様の安全が最優先であるという認識を共に持っていたため公演日程の全中止に関してはすぐに合意し、また、中止した日程分の劇場費については支払わなくて良いとしていただきました。

④公演全体で約30万円の赤字となりました。

⑤私たち演劇家が、被災された方々のために何をすべきか考えた時、一番にできるのは今まで同様表現活動を通じてお客様の心に働きかけることだと思えます。それが巡り巡って、被災地の復興、日本の復興へつながるエネルギーとなると信じています。一時は電力不足や物資不足など混乱もありましたが、原発問題は長期化しています。ですが、そのために我々が活動を抑え、「自粛」の言葉のもとにイベントを控えるなど、日本全体のエネルギーを停滞させるべきではありません。小劇場関係者の中にも、相次ぐイベント中止により、生活の見通しが立たない人もいます。一日も早く、劇場に多くのお客様が集う日が戻るよう、微力ながら尽力していきたいと思う所存です。

日本の演劇界全体で共に助け合い、苦しい現状から立ち直るべく支えあっているほしいと願っています。

回答例 C

①劇場の舞台上で稽古していました。僕は客席、役者7名は舞台上です。

②まず金曜日のソフレは直ぐに中止を決定。あとネットやツイッターでの告知を全員でやりました。土曜、日曜に関しては様子を見ようと判断して帰宅。土曜と日曜に関しては、無料公演という形で打ちました。地方からの御客様も大勢いたのもあり、メールが届かない御客様もいるのではというのもあり…

一人でも来た場合は、状況を説明した上で上演しました。あと土日に来られた御客様には、劇団で物販しているDVDをプレゼントしました。

③五万円安くして戴きました。

④120万円の損失です。DVD等を入れれば…もつと増えます。

⑤今回は天災：杉並演劇祭様も大変な状況にある

かと思えます。皆が大変な時に言いたくないのですが…助成金の方は出るのでしょうか？もし初日と土日の計5ステージだけでも戴けたら嬉しいですね。僕等としては、またいつか杉並演劇祭に参加したいと思っています。何も成し遂げていませんから。今後の要望としては…今回参加していた劇団は、次回参加する時に援助金があると良いのでは？僕等以外の団体様の被害額は存じませんが…やはり相当な負債を抱えたのではないのでしょうか？あと僕等は二人しかいない小さな劇団です。今回の出演者も僕入れて8名です。だから個々の負担額が大きく、少しでも負担が減り、一秒でも早く杉並区のために表現をしていきたい。

編集後記

▼どの団体にも必ずと言っていいほど広報の仕事がある。大切な仕事であることはわかっているが、物足りない。達成感が無い。この協会誌も出版することで必死である。無理もない。みんな自分の演出活動で一杯の上さらに協会の事業やその他のことに忙殺されているのが現状である。会員一人々が広報しなくなる仕組みを作らなければならぬ。（篠崎光正）

日本演出者協会の運営は協会費で行われております。会費未納の方は、納入をよろしくお願い致します。

広報部員募集

協会誌「D」取材編集発行
協会 NEW ホームページ運営 <http://jda.jp>
問合せ：kohobu@jda.jp
または広報部員に直接お問い合わせください。